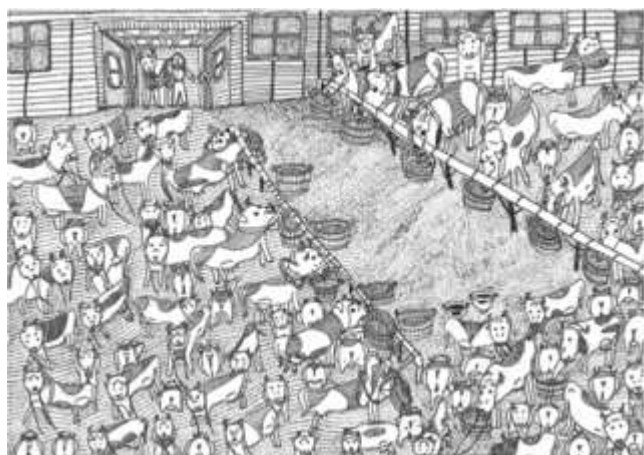


高橋 和彦

「点と線の階調は 快調に 変調中」 Contemporary Art Brut vol.7

2012/01/04(wed) - 01/29(sun) 11:30 ~ 18:30

高橋和彦 岩手県立美術館出展記念



高橋和彦 画用紙・ペン 270×380mm

高橋の絵に現れてくる詳細な情報は、彼の驚くべき克明な記憶力をもって成立する。絵の対象となるものは、電車や建物、放牧された家畜、遠くの山々やそれに連なる里山の風景、または民族画のようでもあり、神仏の像や洛中図のようでもあったりと様々だが、それが点や線で描き尽くされ、その境界に位置する地面の土までもびつりと点や線で埋め尽くされる。しかもその地面を埋め尽くす点や線は、前景の対象物と同じ強弱とピッチで対等に打ち込まれている。全ての対象物を比較対照して捉えることがなく、地面の土の粒子、一粒一粒、それは小砂利であったり、黒い土であったり、雨後の泥土であったり、粗い砂利混じりの土であったりと、まるで彼の足裏の皮膚でその感覚を得たような実在感をもって、丁寧に丁寧にその感触を思い出すように愛おしそうに描いている。

多くの画家や写真家が画面からヒエラルキーを無くすため、あらゆる手法で、それは例えばいずれかにも焦点を合

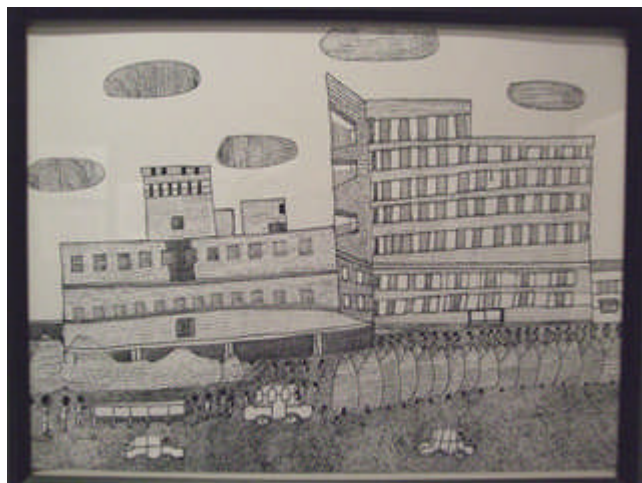
わざわざ構図を作ることもなく、などのように試みてきた訳だが、高橋の視点はその逆で、全てのものに対して照準を合わせ、しかもその照準は決して比較対照としての要素に陥らない焦点となっているところが驚きだ。不思議なものだ。彼は画面を平等にびっしりと埋め尽くすことによって、ヒエラルキーの波力を点や線で柔らかく受け止め、そのエネルギーを我々の意図しない場所へ逃がしこんでいるとしか言いようがない。波力を受け止めるものたちは、彼の生きてきた、つまり、触ったり、踏んだり、浴びたり、飲んだり、ぶつかったり、おしっこしたり... と、実生活の中から甦ったものたちだ。そこには、ものに対しての分別や一処へのこだわりはなく、日本特有の万物、または、ヤオヨロズのものへの即物的平等性が、彼の実生活に既に存在していることが見てとれる。おしっこすることも、絵を描くことも同列なのだ。そういう揺るぎない処から生まれでた彼の絵は、身体性の重要性などという、実体のない脆弱な薄皮みたいなものとは違う、彼の生きてきた実生活からの産物であり、高橋の実体感の記憶の勝利の賜物だと言える。

素朴派か？アウトサイダー・アートか？という分類や呼称の相違は高橋にとっては何の意味ももたない。彼は期せずして、実体のないアートというものの薄皮を、その柔らかい受動態勢で全てを覆いつくし、ヒエラルキーのない空間へと我々を飛翔させてくれる。彼の絵は素朴派でもなく、癒し系でもなく、我々を守ってくれていると思い込んでいる薄い殻を、内部から砕いていく挑発的な絵だ。高橋の柔和な面差しからは窺い知ることはできないが、常識人がいつしか忘れてしまったブラックユーモア、それもブラックベタ塗りではなく、ドットとラインで仕上げた淡いユーモアを、彼は常に投げかけ、我々の殻を破碎し開放してくれることだろう。

sekka

協力: 社会福祉法人 盛岡杉生園 後援: 文京区(文京アカデミー推進部)





高橋和彦出展情報

岩手県立美術館

『私たちが IMA 在ることー7 人の現代美術家たちによる』

2011/12/18 - 2012/02/26

弊廊で<コンテンポラリー・アール・ブリュット>として展覧会を開催してきた高橋和彦が、岩手県立美術館の企画展に出展します。

東日本復興支援展示として「時の経過」をテーマに、廃材などをピースにした立体作家アニアス・ワイルダー他 6 名の現代美術家たちとの展覧会です。

高橋和彦 1941 年盛岡市生まれ／盛岡市在住 （岩手県立美術館学芸員 盛本直美）

点と線。この最も原始的で純粋な形態によって生み出されるのは、いつか見たようでどこにもない世界。幼い頃に見た風景なのか、もしかして未来の風景？ 過去現在未来という時間軸を超えて、空間のねじれの中に突如現れたような、高橋和彦の描きだす世界をじっくりと眺めると、彼がとても広い視野と鋭敏な観察眼をもったアーティストであることが分かる。地面や山の木々、海、雲、そして建物の壁、あるいは人の肌。ひとつとして同じものはない、それらの素材や質感の微妙な違いまでもが、その画面に再現され、私たちの目の前に提示されているのである。彼の作品のもつ独特の魅力とは、ときに鳥の眼、ときに小さな昆虫の眼となって世界を眺める作家の眼を通して、これまで私たちが日常的に目にし、知っている（と思いこんでいる）風景や人物に対するまったく異なった見方を発見できることであろう。

60 歳を目前にして絵を描き始めた高橋は、第 8 回岩手県障がい者文化芸術祭での特別賞受賞（2000 年）、障がいを持つ人たちの公募展である、「いわて・きららアート・コレクション」におけるきらら大賞獲得（2003 年）を皮切りに、パリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展（2010 年）の出品作家に選ばれるなど、近年目覚ましい活躍を見

せる。今回の展示では、同展のオープニングで初めて訪れたパリの街並みを描いた作品のほか、最新作もご紹介する。その生涯のほとんどを盛岡で過ごす高橋の中に、限りなく広がる大きな大きな世界の美しさを堪能していただきたい。

リンク

『私たちが IMA 在ることー7 人の現代美術家たちによる』

復興支援展示 イベント

高橋和彦 sekka web

Contemporary Art Brut vol.3

Contemporary Art Brut vol.2